



未来のために：
気候正義と教育に関する
ユースの声

目次

4. 先住民の正義
5. このプロジェクトを率いるユースチームの紹介
6. 序文
8. 主要統計
10. 要約
11. 主な調査結果の概要
12. 調査方法
15. 主な調査結果
15. 低所得国の女の子が、最初に、そしてもっとも大きく気候危機の被害を受けている
 - 15. 主な調査結果 1:
洪水から森林火災まで、気候変動は女の子が教育を受ける権利の実現を妨げており、気候変動は女の子の教育に影響を与えている
 - 17. 主な調査結果 2:
複数の複合的な異常気象により、女子教育が中断される
 - 20. 主な調査結果 3:
最初に、そしてもっとも大きな打撃を受けるのは、低所得国の女の子である。オーストラリアでは、先住民族のユースがより深刻な影響を受けている
24. 絶望 - 失う未来 - 子ども時代と損失
 - 24. 主な調査結果 4:
気候変動は、女の子の通学の可否だけでなく、教育の質にも影響を及ぼしている
 - 25. 主な調査結果 5:
水不足はインドネシア東部地域の女の子にとって重要な問題であり、教育に影響を及ぼしている
26. 怒り - 気候危機が女の子の生活に波及的に及ぼす影響と、それが彼女たちの未来と希望にとって何を意味するのか
 - 27. 主な調査結果 6:
農作物は不作で、学校に通う余裕はない
 - 28. 主な調査結果 7:
女の子は気候変動のことを心配している。それは彼女たちの精神衛生にも影響し、将来望む仕事に就けるかどうか不安につながっている

28. 主な調査結果 8:
女の子は、気候変動のために将来の選択肢が狭くなったと思っているが、政治家が彼女たちの声に耳をかたむけようとしないことに怒りを感じている
30. 主な調査結果 9:
女の子や ユースは、気候変動や グリーン・ジョブの技術についてもっと学びたがっている。現在のカリキュラムは十分なものではない
32. 主な調査結果 10:
女の子は活動を通じて、自分の未来に希望を持つことができる。
だが、気候危機に対処する責任は裕福な国や大規模汚染者にある

35. 損失と損害

36. より良い未来へのビジョン - 提言

表紙絵:

インドネシア、ネパール、オーストラリアで学校に通う女の子と多様なジェンダーのユース

プラン・インターナショナル・オーストラリアのユースアクティビストNiranjanaとAnton (@loveon35mm @artxanton)の作品

『未来のために』報告書のためのアート制作は、困難を伴うものでした。気候危機によって、特に気候変動への責任が軽微な低所得国において、私たちと同年代の女の子や多様なジェンダーを持つ人々が大きな損失と悲しみを経験しています。私たちは、気象災害によって教育、健康、安全、生計が破壊されたにもかかわらず、変化を推し進めようとする彼らの強さと、希望を持ち続ける姿をとらえたかったのです。この報告書やそのほかの同じような作品でも、真実と生きた経験が語られています。私たち若者は、急速に悪化する環境から目を背けてきた政治家や指導者に責任を問うべきです。私たちは、人びとがこの報告書や作品に関心を持ち、気候正義と全人類の不安のない未来のために闘い続けることを願っています。

先住民の正義

本報告書の執筆者は、過去と現在の長老たちへ敬意と謝意を表します。私たちは、主権は先住民にあり、この土地は今までも、そしてこれからも先住民の土地であると考えています。私たちは、先住民が土地、水、およびコミュニティと結びついていることを理解し、学び続けること、深く積極的に彼らの声を聴くこと、そして連携して行動することを約束します。

気候正義は先住民の正義を拠り所とするべきものです。オーストラリアの先住民族は気候危機の矢面に立たされていますが、6万年以上にわたり国土を守ってきた彼らの知識こそが、気候変動対策の中心であるべきです。私たちは、先住民の正義を守り、彼らに対する差別と権利剥奪の長い歴史(直近のボイス・レファランダムは残念な結果になりましたが)と闘い続けるべく、彼らを支援し、連携することを約束します。

支援者である私たちは、先住民のコミュニティこそが、先住民の正義と気候危機対策の解決策を持つと考えています。オーストラリアにおける気候変動対策においては、彼らの知識に耳を傾け、それを軸とすることが大切です。先住民の主権と土地および水資源の管理権を認めるという協定こそが、この変革の動きにおいて極めて重要です。

このプロジェクトを率いる ユースチームの紹介

ネパール

Babita	Manisha	Samikshya	Sostika
Bandana	Neha	Samita	
Chetana	Rehimat	Shikha	

インドネシア

Alif	Devy	Rio	
Daffa	Dhita	Roslin	
Dela	Hilda	Wigbertha	

オーストラリア

Allyza	Georgia	Melis	Rhiannon
Angelina	Iman	Niranjana	
Chloe	Lydia	Rabia	

このプロジェクトを支援するユースアクティビスト卒業生

Bettina	Imogen	Kayshini
Danielle	Jazmin	Naila
Grace	Jemma	Olivia

序文

ヒマラヤの中心地、ネパールのユースアクティビストとして、気候変動が女子教育に与える深刻な影響について、オーストラリア、ネパール、インドネシア3カ国のエピソードと考察をまとめたこの文集を紹介できることを、大変光栄に思います。「気候変動に関するユースアクティビストシリーズ」の中で、私自身の経験や懸念を共有させていただいており、この重要な協議の一端を担えることに感謝しています。



ネパールは比類のない美しい自然を持つ国でありながら、環境変化の矢面に立たされています。特に農村部の女の子は、この悪化する一方の気候危機の中でもっとも弱い立場に置かれることが多いです。このページで紹介するストーリーは、逆境に立ち向かう彼女たちのレジリエンスと決意をよく表しています。



気候変動により、女の子が教育を受けることはますます難しくなっています。長引く干ばつ、不規則にやってくるモンスーン、その他の異常気象は彼女たちの日常生活を混乱させ、通学を危険なものにしています。気候に起因する災害によって家事負担が増え、多くの女の子が家族を支えるために学校の中途退学を強いられます。これらの物語は、このようなハードルを乗り越えようと努力する彼女たちの不屈の精神に光を当て、犠牲を伴っても教育を受ける価値があることを証明しています。

これらのストーリーを通して、私たちは気候変動に取り組むことだけでなく、女子教育を最優先することの重要性を主張します。これらの若者の声は、女の子への知識と技能によるエンパワーメントが、気候変動という逆境に直面した際のレジリエンスを構築するための重要な一歩であるという事実を証明しています。

この調査が、気候変動との闘いにおいて、ともに行動し、立ち上がるきっかけとなることを願っています。ネパールと地球の未来は、それにかかっているのだから。私たちの世代だけでなく、これから生まれてくる子どもたちのためにも、これらのストーリーをきっかけとして、行動を起こし、変革へとつなげましょう。

手を取り合って。

– ChetanaとSamikshya、ネパール

ユース世代は我が国のバトンリレーの代表であり、未来をその手に握っています。私たちユースは、現在と未来をつなぐ架け橋となるのです。ユースは気候危機の影響を直接受けており、それはユースの未来にも影響を及ぼしています。私たちユースは、意思決定者が行動を起こさないことに不満を感じており、だから自分たちで行動を起こすのです。私たちは限られた資源しか持っていませんが、気候危機を食い止めるために全力を尽くしています。



ユースによるこの新しい調査は、ユースが気候問題に取り組むためのひとつの拠り所となっています。オーストラリアとネパールのユースたちと一緒に、私はそれぞれの地域のユースが気候変動の影響を多岐にわたって受けていることを知りました。私たちは、干ばつ、公害、廃棄物問題、洪水、病気の蔓延、その他多くの気候危機問題に関心を寄せています。ユースは変革を必要不可欠なものだと考え、切望しています。この変革をもたらすためには、揺るぎない支援、スペース、そして感謝が必要です。とりわけ、現実にはさまざまな理由から発展のスピードは鈍っていますが、気候変動の影響は不可逆で、私たちが反省するのを待ってくれるわけではないのです。

東インドネシア出身の女性の一人として、私も変革を望んでいます。このプロジェクトは、気候問題に関わるインドネシアのユースとして、私が抱負を語る場を提供してくれました。この試みによって、各国の気候問題に取り組むユースの活動が、一層広がっていくことを願っています。変革は必要であり、ユースにはそれを実現する権利があるのです。

– Osin、インドネシア

私たちは、気候正義との闘いにおいて重大な岐路に立たされています。今すぐに改革に向けて行動するべきです。オーストラリアの近隣諸国では、すでに気候変動によって人生が変わるほどの、壊滅的な打撃を受けています。しかし、いまだに政府は明確な行動を打ち出していません。これは、迅速な行動を求めるユースの不満の原因となっています。

ここオーストラリアでは、私は幸運にも、既に変革と気候正義を訴えている人々の声を広めて、支援することができます。私自身が支障なく教育を受けることができたことには感謝していますが、オーストラリアには、気候変動の影響を受けているユースがたくさんいます。町全体、州全体、国全体が気候変動による壊滅的な結果に直面しているのです。

私たちは声をあげ続け、世界中の若いアクティビストたちと連携していきます。私たちユースは未来の代表です。私たちはネパールとインドネシアのユースアクティビストと提携し、世界的な気候正義のための闘いにおいて彼らの声と経験を広めているのです。

富裕国であるオーストラリアは、今こそ主導的な役割を果たし、意義ある行動をとるべきです。低所得国の女の子は、気候変動に対する責任がほとんどないにもかかわらず、気候変動の影響を一身に受けています。世界的に見ても、女の子はすでに教育を受ける上で多くの障壁や困難に直面していますが、気候変動によって彼女たちの教育はさらに困難なものとなります。気候変動の影響は深刻で、心身の健康に影響を与え、将来の機会を奪い、ジェンダーに基づく暴力や早すぎる結婚のリスクを増大させます。女子教育は極めて重要ですが、それはすでに脅威にさらされています。だからこそ、今すぐに気候変動に対して明確な行動をとる必要があるのです。

報告書のタイトル「未来のために」は、満ち溢れる希望や、気候変動の影響に対処し未来を救うために今できる対策、そして私たちが受け継ぐことになる世界を守るために、未来の世代である私たちに課せられた責任など、私たちの重要なメッセージを表現しています。

私たちの望みは、私たちのメッセージが聞き入れられ、政府が責任を果たすことです。私たちは皆一緒であり、一緒であればより強くなれるのです。

– Rhiannon、オーストラリア



主要統計



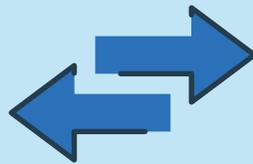
今後2年間で、気候変動が理由で毎年

1,250万人超の女の子

が中途退学を余儀なくされる可能性があると予測されている¹。

98%

の回答者が、気候変動が自身の学校生活に現在どう影響をおよぼしているか、または将来どう影響するかについて、「非常に懸念している」または「ある程度懸念している」と答えた。

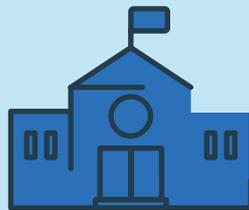


62%の回答者が、気候変動によって通学に支障をきたした経験がある。



3人に1人以上が、気候変動に関連した事象が理由で、学校の休校、損害、破壊を経験している。

気候変動が教育に与える影響について、オーストラリアの回答者の69%が「自身の将来についての見通しが立たなくなること」を最大の懸念事項のひとつに挙げている。



インドネシアでは、2005～19年にかけて少なくとも

3万5,300校

が災害の影響を受けている。

ほぼ

2人に1人

の回答者が、気象災害により学校での生活や登下校に危険を感じている。

主要統計

ネパールでは、気象災害のために毎年最大で3カ月間、生徒が教育を受けられなくなっていると推定されている。2017年の洪水では、約2,000校の学校が損害や破壊を受け、約23万8,900人の子どもが学校に行けなくなった。もっとも被害の大きかった地域では、学校の90%が破壊された。



2人に1人

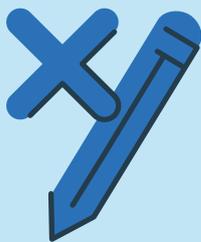
が、女の子に災害への備えをもっと教えてほしいと回答した。



オーストラリアでは、2019~20年の森林火災がニューサウスウェールズ州だけで約165万人に影響を与え、そのうち30%が0~24歳の子どもとユースだった。森林火災の影響を受けた子どもやユースのほぼ10人に1人が先住民族のユースだった。

50%

の回答者が、
将来グリーン・ジョブ
(訳注:働きがいのある人間らしい仕事であって気候変動との戦いに寄与する環境に良い仕事のこと)に就くために必要な、より多くの技能を学ぶことを希望している。



インドネシアでは、回答者の50%超が、気候災害によって教育が中断されることによる成績の低下を懸念していた。

インドネシアでは、
2021年に約

10万人

の子どもが
鉄砲水と地滑りによって
教育を受けられなくなった。



オーストラリアは、
2022年にニューサウス
ウェールズ州と
クィーンズランド州で
洪水が発生し、
約1,000校が
臨時休校となった。

要約

気候危機はジェンダーニュートラルではない。特に気候変動への責任がもっとも軽微な最貧国において、女の子にもっとも深刻な影響を及ぼしている。国際的にも、気候変動が女の子とその教育にどのような影響を及ぼしているのかについて、エビデンスが増えつつある。今後2年間で、気候変動のために毎年1,250万人以上の女の子が学校教育を修了できなくなると予測されている²。だが、その国の気候変動へのレジリエンスを向上させるためには、女子教育への投資は見過ごされがちであるが、もっとも有効な解決策のひとつである³。

しかし、このような話題が女の子自身によって語られることは滅多になく、気候変動政策がどう策定され、実施されるかに関して、女の子の優先事項や希望が聞き入れられることはない。

このプロジェクトでは、インドネシア、ネパール、オーストラリアのユースアクティビスト30人が協力し、気候変動が女子教育にどう影響しているのかを彼らの口から聞き、また最終的に何を求めてほしいのかを調査した。オンライン調査と写真を通して、ユースアクティビストは、気候変動が教育にどのような影響を及ぼしているかについて、女の子の経験談を集め、より良い未来へのビジョンを描いた。ユースアクティビストは、気候正義の視点からこれらの提言を作成し、気候危機がこの問題への加担がもっとも少ない人々にもっとも大きな打撃を与えていること、そして私たちが提言する解決策がこの不公正をどのように是正できるかを検討した。

その結果、低所得国の女の子が気候危機によって、最初に、そしてもっとも深刻な打撃を受けており、教育を受ける権利を脅かされていることがわかった。気候危機によって学校が被害を受けて休校になったり、女の子の通学が妨げられ、その結果、質の高い教育を受ける機会が大きく損なわれていた。このように混乱した状況のなかで、同級生に遅れをとったあげく、将来の仕事の機会を失うなど、彼女たちの将来は深刻な影響を受ける。

気候変動は至る所でユースに影響を与えているが、その影響は平等ではない。女の子は男の子に比べ、気候変動によって通学が難しくなることが多い。例えば、インドネシアの東ヌサ・トゥンガラ地方では、女の子は毎日水を汲みに遠くまで行かなければならず、時間通りに登校することが難しかったり、登校後に学習に集中できなかつたりしている。

気候危機によって、女の子の将来への不安や心配は募る一方である。将来の選択肢が狭まっていると感じ、将来就きたい仕事に就けるか不安になっているのだ。

不平等な影響を受けつつも、女の子は気候危機と闘うために立ち上がろうとしている。彼女たちは、気候変動に関する政策、資金の策定や、意思決定プロセスにどうしたらもっと参加し、影響力を持つことができるのかと考えている。彼女たちは、気候変動の影響に適応するため、地域コミュニティの中心となれるよう、グリーン・ジョブに不可欠な技能を学びたがっている。

何よりもまず、女の子は、気候危機の原因のほとんどが富裕国や大企業の汚染である、と理解している。責任者は今すぐ行動を起こし、損失と損害に資金を提供し、気候変動に関する意思決定において女の子の意見が反映されるよう支援するべきである。

主な調査結果 の概要

1. 洪水から森林火災まで、気候変動は女の子が教育を受ける権利の実現を妨げており、女の子は気候変動が教育に与える影響を経験している。
2. いくつもの複合的な異常気象により、女子教育が中断される。
3. 低所得国の女の子が、最初に、そしてもっとも大きな打撃を受ける。オーストラリアでは、先住民族のユースがより深刻な影響を受けている。
4. 気候変動は、女の子の通学の可否だけでなく、教育の質にも影響を及ぼしている。
5. 水不足はインドネシア東部地域の女の子にとって重要な問題であり、教育に影響を及ぼしている。
6. 農作物は不作で、学校に通う余裕はない。
7. 女の子は気候変動に不安感をもっている。それは彼女たちの精神衛生に影響していて、将来希望の仕事に就けるかどうか心配している。
8. 女の子は、気候変動のせいで、将来の選択肢が狭くなったと感じ、政治家が彼女たちの懸念を聞かないことに怒りを感じている。
9. 女の子やユースは、気候変動やグリーン・ジョブのスキルについてもっと学びたがっている - 現在のカリキュラムでは十分ではない。
10. 女の子は活動することで、自分たちの将来に希望を持つことができる - だが、気候危機に対処する責任は裕福な国や環境汚染に加担する大企業にある。



Adiana, 13歳、インドネシア

調査方法

「未来のために: 気候正義と教育に関するユースの声」には、オーストラリア、インドネシア、ネパールの30人の若い変革者が参加し、フェミニスト参加型行動アプローチを用いて、気候変動が女の子の教育の権利に与える影響を共同調査した。このアプローチには、ユースが変化を求めて声を上げるスキルを身につけるトレーニングも含まれていた。これは、複数国のユースアクティビストが参加した6回のオンライン・ワークショップと、国内での継続的な関わりを通じて行われた。

調査課題

気候危機は、貧困と不平等との闘いにおいて、女の子やユース女性、多様なジェンダーのユースにとって、最大の脅威のひとつである。彼らのもっとも基本的で重要な権利のひとつである教育を受ける権利に、気候危機がどのような影響を与えているかを理解する必要がある。

1. 気候変動が女子教育に与える影響とは
2. 教育を受ける権利を守るために、ユース女性や女の子、多様なジェンダーのユースはどんな変革を望んでいるのか
3. 気候変動から教育を守るために、インターセクショナルな価値観をどのように活かせばいいのか

提言の作成にあたり、ユースアクティビストたちは気候正義の視点に立ち、気候危機がもっともその問題に責任のない人びとにもっとも大きな打撃を与えていること、そしてこの不公正を是正するためにどのような解決策を提示できるのかを検討した。

ワークショップ

このプロジェクトに参加した30人のユースは、元ユースアクティビストとプランのスタッフが企画・進行した6回のオンライン・ワークショップに参加し、国別のワークショップや、倫理的なデータ収集とデータ分析に関する訓練を受けた。

1. ワークショップ1: 未来を築く - お互いの紹介とプロジェクトの紹介
2. ワークショップ2: 多くの力強い声 - 気候変動とジェンダー正義の深掘り

3. ワークショップ3: 政策の核心 - 調査設計とデータ収集を含むエビデンスの作成
4. ワークショップ4: とにかくやってみる - どのようにキャンペーンを実施するか
5. ワークショップ5: Youth4Climate - キャンペーン戦略の策定
6. ワークショップ6: 有識者会議 - データ分析と提言

データ収集

ユースアクティビストたちは、参加型プロセスを通して、オンライン調査とフォトボイス(写真を使って自身の経験や意見を共有できる方法)を利用してデータを収集することを決定した。

調査は、インドネシアとネパールではSurvey Monkey、ネパールではMicrosoft Formを利用して、英語、バハサ語、ネパール語を用い、オンラインで行われた。この調査は、3カ国のプランのユースネットワークやユースアクティビスト自身のネットワークを含め、フェイスブック、インスタグラム、メーリングリストを通じて共有された。調査は、自由形式の質問がひとつと選択式の質問で構成された。アンケート回答者への報酬は支払われなかった。主に、女の子、ユース女性、または多様なジェンダーの若者の回答が多かったが、ユース男性や男の子の回答もあった。

このプロジェクトに参加した30人のユースアクティビストたちは、調査質問に対して2枚の写真を撮り、同じことをしてくれる仲間を1人探すよう求められた。

これらの写真は、気候変動が彼らの教育にどのような影響を与えてきたか、あるいは教育を受ける権利を守るためにどのような変革を望むか、という点に焦点を当てたものである。写真は、ユースアクティビストが携帯電話を使って撮影した、彼ら自身の状況や経験からなるものである。プランのスタッフは、ユースアクティビストがこれらの写真を撮影する際には同行していない。

フォトボイス（訳注：参加メンバーが撮影した写真を持ち寄り、グループで話し合い、自分の経験や心情をもとに伝えたいメッセージ（「声」）を作る、コミュニティベースの参加型調査で使われる定性的調査手法）は、オンライン調査と同時に行われた。ユースアクティビストは、フォトボイスのデータ収集方法と倫理的なデータ収集の実践に関する研修を事前に受講した。ユース向けのガイダンスがピアネットワークに送付され、アクティビストをサポートした。

プロジェクトに参加したユースアクティビストの大半は、ユース女性または多様なジェンダーの若者であったが、インドネシアから参加したユース男性も3名いた。

収集結果:

502人のユースがオンライン・アンケートに回答

- 54人はインドネシアから
- 182人はネパールから
- 166人はオーストラリアから

96件の写真、ビデオ、グラフィック表現

- 29件はインドネシアから
- 55件はネパールから
- 12件はオーストラリアから

プランのスタッフとともに、オーストラリアの元ユースアクティビストが初回のデータ分析を行った:

- 調査結果の初回分析
- 自由形式の質問のコーディング
- ユースアクティビストによる写真とその説明文のコーディング。

この初回分析は、3つの国別ワークショップと1つの合同オンライン・ワークショップで、ユースアクティビストにより検証・承認され、最終的な所見と提言が作成された。オンライン調査やフォトボイスにはユース男性や男の子も含まれているため、報告書の中には、この問題がユース全般に与えている影響について、データに基づいて言及した箇所もある。

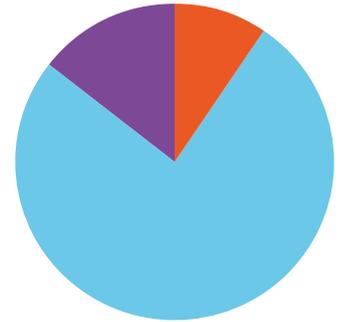
プラン・インターナショナル・オーストラリアのスタッフとともに、オーストラリアのユースアクティビスト卒業生も文献調査を実施し、そこから得られたエビデンスを調査結果や写真とともに用いて、調査結果と提言を作成した。

調査回答者

回答者のジェンダー別内訳:

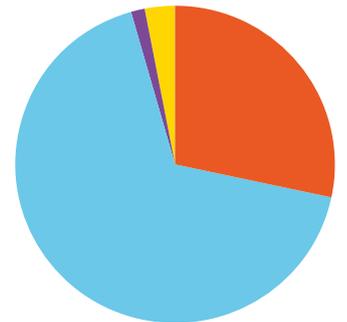
オーストラリア

- 男性 (10%)
- 女性 (76%)
- ノンバイナリー/多様なジェンダー (14%)
- 答えたくない (0)



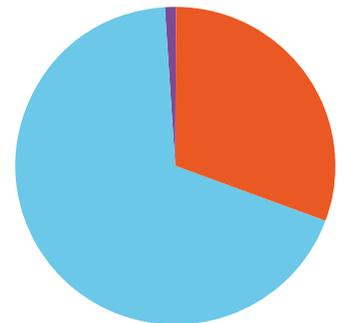
インドネシア

- 男性 (29%)
- 女性 (67%)
- ノンバイナリー/多様なジェンダー (1%)
- 答えたくない (3%)



ネパール

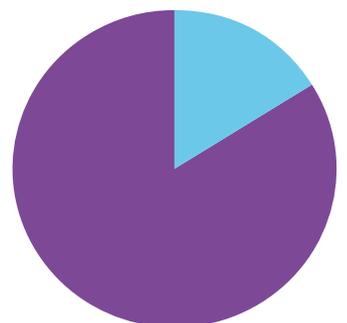
- 男性 (31%)
- 女性 (68%)
- ノンバイナリー/多様なジェンダー (1%)
- 答えたくない (0)



回答者の年齢別内訳:

オーストラリア

- 10-13 (0)
- 14-17 (16%)
- 18-24 (84%)

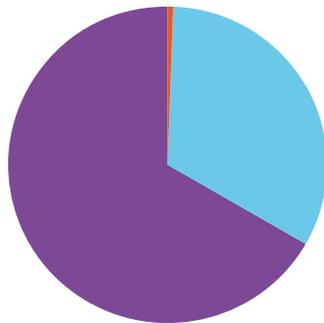




ネパールの学校に通う女の子が、Girls Out Loudというグループを結成した。彼女たちは芸術の才能を披露し、環境を守るための行動を求めている。

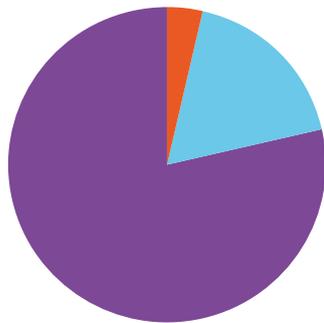
インドネシア

- 10-13 (1%未満)
- 14-17 (33%)
- 18-24 (67%)



ネパール

- 10-13 (4%)
- 14-17 (18%)
- 18-24 (78%)



制限事項

- 私たちの調査は、短時間で簡単に記入できるように設計されている。そのため、気候変動が教育に与える影響に関する設問では、ジェンダー的な影響に関する選択肢は設けず、主に学校への通学の困難さに関する選択肢のみにした。
- 不快な質問に答えなくてもいいように、主要な質問への回答だけが義務づけられた。しかし、そのため、質問毎に回答者数が異なっている。
- このプロジェクトに参加したユースアクティビストは、自ら立候補した。彼らは、多様な経験、インターセク

ショナルなアイデンティティを持ち、属する階層も多岐にわたる。私たちは、彼らの経験が、気候変動や教育に関連するすべての女の子やユースの経験を代表するものとして提示するものではない。また、私たちの調査がサンプルとして典型的なものではないことも認識している。本報告書は、気候変動が女子教育にどのような影響を及ぼしているかについて、既存の調査に追加するために、女子生徒の体験を彼女たち自身の言葉で伝えることに重点を置いている。

- オーストラリアのYASは、フォトボイス活動に参加してくれる仲間をなかなか見つけることができず、また、多くのYASは自身の教育に対する気候変動の影響を、直接的に経験していなかった(調査結果3参照)。そのため、オーストラリアからの写真やストーリーは少なかった。
- オーストラリアの調査とフォトボイスでは、先住民と名乗る回答者は1名のみで、その他の多様なユースの回答も限られたものであった⁴。そのため、オーストラリアで収集されたデータは、先住民のユースの経験を網羅的に示すものではない。私たちは、気候変動が先住民のユースにもたらしている固有の影響や、アボリジニとトレス海峡諸島民の知識が、国土を大切にするという点で重要なものであること、そして気候正義のための戦いにおいて先住民の若者がリーダーシップを発揮していることを認識している。
- 初回のデータ収集に基づき、気候危機が障がい者の女の子と、彼女たちが教育を受ける権利にどのような影響を与えているのか、今後も更に詳しく調べたいと考えている。

主な調査結果

このセクションでは、第一の研究課題である、「気候変動が女子教育に与える影響とは」に対する回答となる、主な調査結果について述べる。

低所得国の女の子が、最初に、そしてもっとも大きく気候危機の被害を受けている

3カ国とも、女の子とユースの教育は気候危機の影響を受けていた。火災や洪水、干ばつなどが原因で、3カ国では一時的に休校となっていた。開校していたとしても、道路が閉鎖されたり災害で損害を受けたりしたため、女の子にとって通学は困難で、その状況はより深刻になり、また頻度も高くなっていった。これは男の子やユース男性にとっても同様であった。

彼らは、季節はずれの雨を原因とする洪水や地滑りの被害のあと、干ばつや水不足に襲われるという、複合的でより過酷な危機を経験している。

しかし、気候変動は、女の子に対してより大きな影響を与えている。ネパールとインドネシアでは、最初に、もっとも大きな危機に見舞われているのは女の子である。災害のあとでも、資源の不足により学校を迅速に再開することができず、女の子の休校期間は長引く一方である。

主な調査結果 1

洪水から森林火災まで、気候変動は女の子が教育を受ける権利の実現を妨げており、気候変動は女の子の教育に影響を与えている

3カ国すべてで、女の子は気候変動による災害のために、学校に通えなくなった経験がある。回答者の98%が、気候変動が学校生活にどんな影響を及ぼしているのか、また将来どんな影響を及ぼすのかについて、「とても気になる」または「やや気になる」と答えている⁵。もっとも多かった影響は、通学路の損傷や休校であった。

98%

の回答者が、気候変動が自身の学校生活にどんな影響を及ぼしているのか、将来どんな影響を及ぼすのかということについて「非常に懸念している」または「ある程度懸念している」と答えた。

オーストラリア

オーストラリアでは近年、気候変動によって悪化した災害が学校運営に影響を及ぼしている。2019年にクイーンズランド州で発生した洪水では、38の学校が休校になり、1万7,900人の生徒の教育が中断された⁶。2022年にニューサウスウェールズ州とクイーンズランド州で発生した洪水では、約1,000校が臨時休校になった⁷。2019～20年に発生した森林火災では、ニューサウスウェールズ州だけで約165万人が被災し、うち約30%が0～24歳の子どもやユースだった⁸。森林火災では、障がいがある子どもやユース、先住民のユースなど、社会から疎外された子どもやユースが大きく影響を受けた。森林火災の影響を受けた子どもや若者の約10人に1人が、先住民族で、3.3%は障がい者であった⁹。

2022年にニューサウスウェールズ州とクイーンズランド州で発生した洪水により、約1,000校が臨時休校となった。

2019～20年の森林火災「ブラックサマー」が、本調査に回答したオーストラリアの女の子の記憶に深く刻まれている。この森林火災の最盛期には、ニューサウスウェールズ州では約600の学校が休校になり、ビクトリア州北部では221の学校と幼児教育施設が閉鎖された¹⁰。



回答者は、この火災のために学校教育が中断されたことを振り返った。翌年には洪水に見舞われた人もいた。

2019年の気候変動による火災は、私の教育に大きな影響を与えました。私の家族もその被害を直接受け、家でも学校でもストレスを感じていました。12月はほぼ休校となりました。私は一度もテストを受けることができず、それが大学受験にまで影響しました（COVID-19のパンデミックと相まって、私は受験の準備をすることができませんでした）。翌年も洪水が続き、学校やコミュニティへのアクセスが遮断され、家族と私に再びストレスがかかりました。

(オーストラリアの調査回答者)

インドネシア

「環太平洋火山帯」に位置するインドネシアは、世界でもっとも災害の多い国のひとつである。環境悪化と気候危機は、こうした自然災害をさらに悪化させている。人口の約3分の1が洪水多発地域に住んでいる¹¹。2021年には、インドネシアで約10万人の子どもが鉄砲水や土砂崩れによって教育を中断させられた¹²。2005～19年にかけて、インドネシアでは少なくとも3万5,300の学校が災害の影響を受けている¹³。

インドネシアでは、2021年に熱帯性サイクロン「Seroja」が50万人超の人びとに影響を及ぼし、NTT（東ヌサ・トゥンガラ）州は深刻な被害をうけ、8,000人超が避難した。コミュニティのインフラが損害を受けただけでなく、学校も損害を受け、休校を余儀なくされた：

2021年4月、NTT州全体で熱帯低気圧を原因とする強風を伴う大雨が数日間続きました。そのため、多くの倒木や洪水、学習施設の損害があり、道路、電気、建物が被害を受け、教育に混乱が生じました。

(インドネシアの調査回答者)

ネパール

ネパールでは、気候災害のために毎年最大で3か月間、生徒が教育を受けられなくなっていると推定されている¹⁴。2017年の洪水では、約2,000校の学校が損害・倒壊し、約23万8,900人の子どもが学校を利用できなかった¹⁵。もっとも被害の大きかった地域では、学校の90%が倒壊した¹⁶。

ネパールの回答者は、大雨や洪水が定期的に休校を引き起こすことについて考察した。

大雨で学校の屋根が壊れて、教室に水が入ってきました。他に授業スペースを確保することができなかったので、学校は急遽休校を発表しました。

学校を欠席することは、学習に深刻な影響を及ぼし、その影響は災害後何年も続く可能性がある。2005年にパキスタンで発生した地震に関する調査では、3か月間学校を欠席した子どもたちは、その4年後には、同世代の子どもたちと比較して1.5年分の学習の遅れがあることがわかった¹⁷。同様に、「ブラック・サタデー」と呼ばれる森林火災に見舞われたオーストラリアの学童約2万5,000人を対象とした調査では、学童期に学習面で遅れをとる可能性が高いことがわかった¹⁸。このままでは、7年後には、ネパールのユースの83.1%が、中等教育レベルのスキルを身につけていないことになる。インドネシアでは、この数字は71.9%である。オーストラリアでは、この数字は21.4%にまで低下するが、それでもユースの5人に1人があてはまる¹⁹。

このままでは、7年後にはネパールのユースの83.1%が、必要な中等教育レベルのスキルを身につけていないことになる。

主な調査結果 2

複数の複合的な異常気象により、女子教育が中断される

3カ国の女の子は、複合的で異常な気象現象の増加について考察した。「一生に一度しかない」レベルの異常気象を、女の子たちは何度も経験しており、それが多くの学校の休校につながっている。2020年に10歳未満の子どもが生涯で経験する異常気象の数は、55歳の人と比べて、約4倍に増加する²⁰。

ネパールの回答者は、干ばつや熱波だけでなく、豪雨、地滑り、洪水が複合的な影響を及ぼしていることに言及した。

洪水で通学路は寸断されています。学校に行っても、自分が水に浸かれば本や教科書も濡れてしまう...雨季にもかかわらず晴天が続いて雨が降らなかったり、気温が上がって水が枯れたり、以前とは違う天候が続いています。その結果、学校は休校になっています。

(ネパールの調査回答者)

オーストラリアの回答者は、熱波と豪雨の複合的な影響についても言及した

ここ数年、私が学んでいた地域は大規模な森林火災の影響を受けました。学校には直接的な被害はなかったものの、煙のために何日も休校になりました。また、熱波や大雨で登校できない日も多く、大雨でバスが動かなかったり、熱波で体調を崩して学校に行けなくなったりしました。(オーストラリアの調査回答者)

このため、女の子の通学にも支障が出ている。通学路や学校での危険は、調査回答者が気候変動による懸念としてもっとも多く挙げたもののひとつである²¹。学校が開いていても、女の子が学校に通うのはますます難しくなっている。

大洪水のときは冠水してしまい、長い洪滞が発生するため、オートバイを使っても通学は非常に困難です。(インドネシアの調査回答者)

同様に、ネパールの学生4000人超を対象とした別の調査では、18%の回答者が、気候変動が通学に影響を与えたと回答した。影響を受けたと回答した生徒のうち、女子生徒(20%)は男子生徒(15%)よりも多かった²²。

2050年までには、地球上のほぼすべての子ども、つまり20億人超の子どもが、より頻繁に熱波にさらされることになるかと予測されている。その割合は、2020年の24%と比較すると大きく膨れ上がる²³。アジアの子どもは、オーストラリアよりもさらに過酷な猛暑と、長期にわたる熱波に、今後も見舞われていくであろう。2050年には、低排出シナリオが実施されたとしても、インドネシアの92%、オーストラリアの12%に対し、ネパールでは事実上すべての子どもがより長い熱波に見舞われると予測されている²⁴。熱波は3カ国すべてにおいて教育活動に大きな影響を及ぼし、回答者は、授業に集中するのが難しくなると述べている。

授業中に汗をたくさんかいたり、暑くて気分が悪くなったりして集中できません。

(オーストラリアの調査回答者)

あまりの暑さのせいで、疲れを感じ、勉強に集中できません。(ネパールの調査回答者)

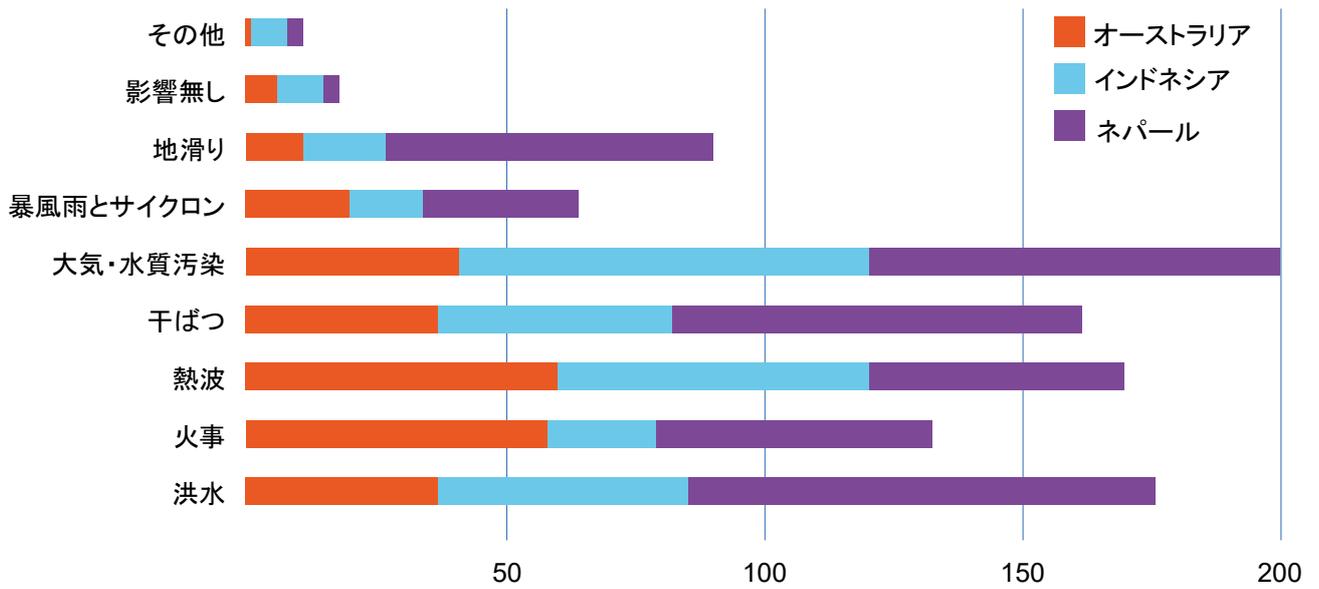
私が一番心配しているのは気温の変化です。毎日午前10時を過ぎると...家の中でも快適ではありません。室温上昇のために、私の日々の生産性は低下していると思います。

(インドネシアの調査回答者)

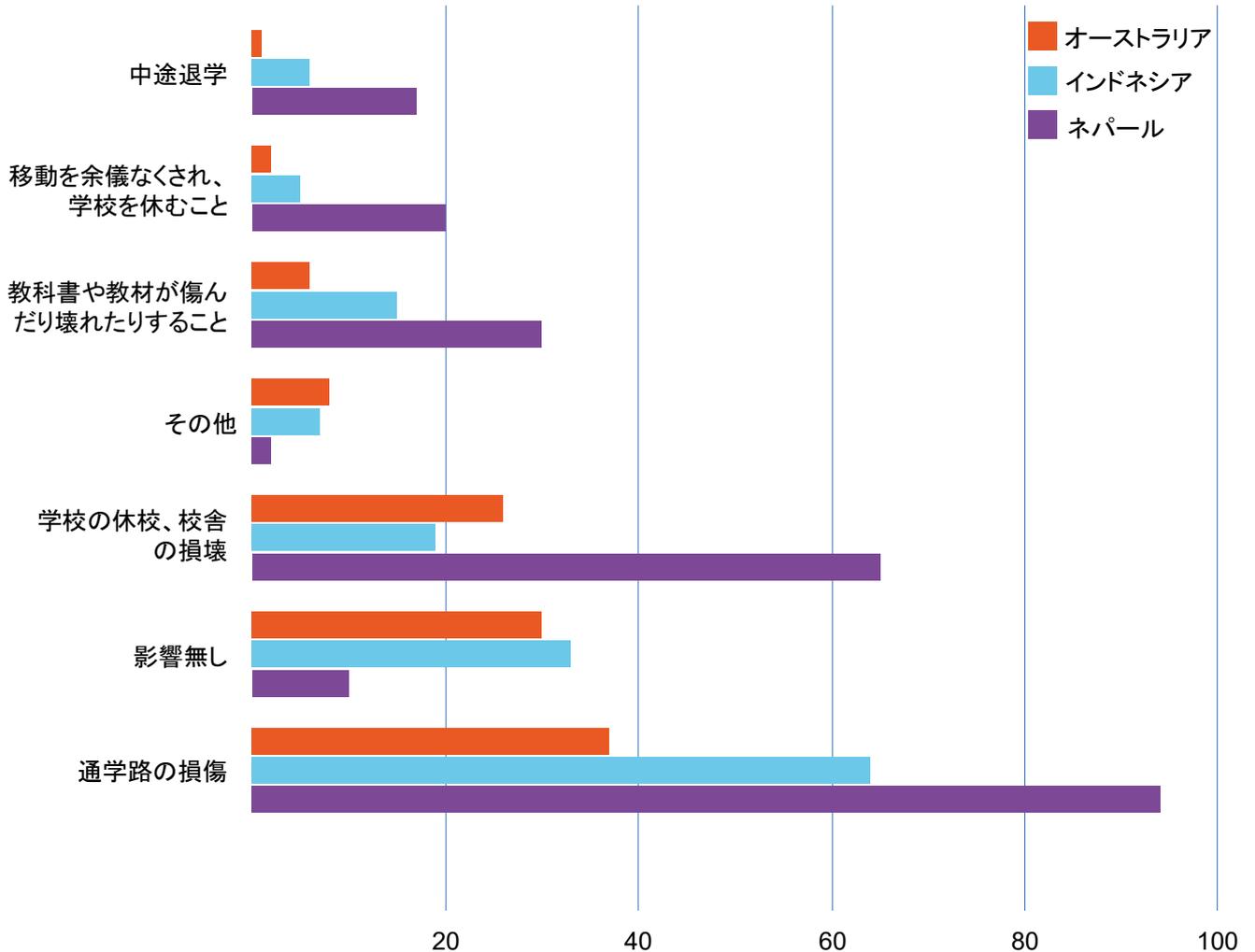
これは学習の質や教育課程の修了率にも影響する。気温が著しく高い場合、平均的な気温の場合と比べて、教育課程の修了期間が1.5年延びる²⁵。

雨季にも関わらず晴れの日が続いたり、雨が降らなかったり、気温が上がって水がなかったり、と以前とは違った気候になっている。

回答者が経験した気候現象の種類(件数ベース)

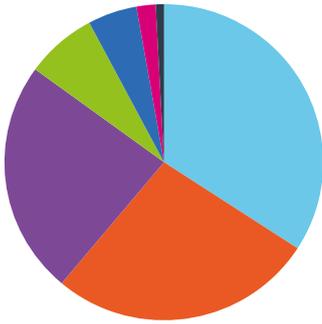


すべての国において、気候変動が教育に与える影響



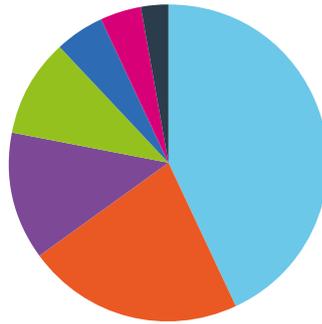
気候変動が回答者の教育に与える影響

オーストラリア²⁶



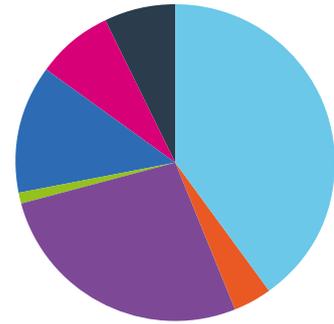
- 通学路の損傷 (34%)
- 影響無し (27%)
- 学校の休校、校舎の損壊 (24%)
- その他 (7%)
- 教科書や教材が傷んだり壊れたりすること (5%)
- 移住を余儀なくされ、学校を休むこと (2%)
- 中途退学 (1%)

インドネシア²⁷



- 通学路の損傷 (43%)
- 影響無し (22%)
- 学校の休校、校舎の損壊 (13%)
- その他 (10%)
- 教科書や教材が傷んだり壊れたりすること (5%)
- 移住を余儀なくされ、学校を休むこと (4%)
- 中途退学 (3%)

ネパール²⁸



- 通学路の損傷 (40%)
- 影響無し (4%)
- 学校の休校、校舎の損壊 (27%)
- その他 (1%)
- 教科書や教材が傷んだり壊れたりすること (13%)
- 移住を余儀なくされ、学校を休むこと (8%)
- 中途退学 (7%)

大気・水質汚染

災害の影響に加え、大気汚染や水質汚染も3カ国すべてで重要な懸念事項として挙げられており、女の子の健康や学校での集中力に影響を及ぼしている。

大気汚染はさまざまな病気の原因となります。生徒たちの健康にも害をおよぼすため、休校期間が長くなることもあるのです。
(ネパールの調査回答者)

とても暑く、空気が汚染され、埃っぽかった時期には、私や喘息がある同級生たちは、呼吸がうまくできず、学校に通えませんでした。
(オーストラリアの調査回答者)

これはインドネシア、特に主要都市の女の子にとって、とりわけ深刻な問題だった。

インドネシアのユースアクティビストであるDevyは、緊急事態となっているブンクルにおけるプラスチック廃棄物の問題を写真で振り返り、蓄積された廃棄物からメタンが排出され、それが温室効果ガスの増加につながり、気候変動と気温の上昇を悪化させていることを強調した。

Devyは、廃棄物や気温上昇の問題は彼女の学校生活にも密接に関わっており、勉強への集中力の低下、健康への影響、頭痛の頻発、免疫力の低下などを引き起こし、学習過程に支障をきたしていると述べた。

不快な環境になり、学習の妨げとなる。暑い気温も、屋外での学習を難しくしている。



ブンクルでのプラスチック廃棄物の緊急事態を写したDevyの写真。

主な調査結果 3

最初に、そしてもっとも大きな打撃を受けるのは、低所得国の女の子である。オーストラリアでは、先住民族のユースがより深刻な影響を受けている

気候危機はあらゆる女の子に影響を及ぼしているとはいえ、その影響の大きさは等しいわけではない。低所得国の女の子は、災害への対策をしたり、耐性のあるインフラに投資したりするための資源が不足しているため、最初に、もっとも深刻な打撃を受けている。こうした格差は、気候変動がこれら3カ国の女の子の教育にどのように影響しているかというところに反映されている。

オーストラリアとインドネシアの回答者も学校への影響について語ったが、洪水、地滑り、猛暑によってもっとも大きな影響を受けたのはネパールの生徒であった。このことは、気候変動が教育に与える影響についての調査で、ネパールの回答者が選んだ上位3つの回答を見ても明らかである²⁹：

- 通学路の損傷 (40%)
- 学校の休校、校舎の損壊(27%)
- 教科書や教材が傷んだり壊れたりすること (13%)

これは、インドネシアとオーストラリアの回答者では、62人の回答者が学校教育への「影響無し」を選択したことと比較している(オーストラリアでは30人<回答者の27%>、インドネシアでは32人<回答者の22%>)³⁰。ネパールの回答者のうち、この選択肢を選んだのはわずか10人で、回答全体の4%だった。

ネパールやインドネシアの写真では、オーストラリアと比較して、インフラ被害などによる教育への影響ははるかに多かった。これは、オーストラリアでは災害への準備と対応力が十分で、防災のための資金が豊富であること、また、被害を受けた建物を修復するための資金もあることを反映している。

インドネシアの2人のユースアクティビスト、AbdillahとDhitaは、9ヶ月前にチアミス県で発生した洪水によって何百もの家が被害を受けたことによる、影響の重大さについて語った。史上最大級の洪水は、引くまでに2~3日を要し、地滑りなど他の災害をも誘発した。豪雨に端を発した災害は、どんどん酷い状況になっていったが、被害を大きくした一因は河川の汚染や廃棄物の蓄積である。

「洪水や地滑りは過去にも起こりましたが、その激しさや頻度は今ほどではありませんでした。」
(Dhita、ユースアクティビスト、インドネシア)

深刻な洪水災害は、地域のモビリティにただちに影響を及ぼした。たとえば道路の封鎖や避難勧告によって、人々は避難を余儀なくされたことなどである。DhitaとAbdillahの両氏によると、このような規模の洪水に見舞われた際には、学校の活動を一時的に中断せざるを得なかったとのことだ。Abdillahが説明するように、この状況はコミュニティの人々やユースの健康にも影響を与える。

「若者であっても多くの人が体調を崩しており、その影響は教育の機会にも及んでいて、それがまた私たちの進歩を妨げていると思う。」



Bardiyaは、子どもが学校へ行くために洪水の中を移動しているのを写している。



Babitalは季節はずれのモンスーンで冠水した運動場を撮影した。



インドネシアのチアミス県での洪水を撮影したAbdillahのビデオからの静止画。

Umanはフォトストーリーの中で、集中豪雨が引き起こした洪水が、校舎に大きな被害をもたらしたことを振り返った。

その損害とは、崩れかけた壁、洪水で汚れた椅子や机、そして何よりも心配なのが、雨漏りと劣化した屋根である。

インドネシアでは、気候変動の影響は不平等であり、特に水不足の問題では、農村部の女の子が最初に、そしてもっとも深刻な危機を経験した。これについては、主な調査結果5で詳述する。

気候変動による異常気象の影響を、 もっとも強く受けているのは 先住民である。 ニューサウスウェールズ州の ブラック・サマー森林火災で 被災した子どもの10人に1人が 先住民の子どもだった。

オーストラリアでは、気候危機の矢面に立たされているのは先住民のユースである。気候変動による異常気象の影響を、もっとも強く受けているのは先住民である³¹。ニューサウスウェールズ州とビクトリア州の人口の2.3%しか先住民族がいないにもかかわらず、ニューサウスウェールズ州のブラック・サマー森林火災で被害を受けた子どもの10人に1人は、先住民の子どもとユースだった。火災の影響を受けた地域の先住民コミュニティ全体のうち、36%が15歳未満である³²。

オーストラリアにおける気候危機が女子教育に与える影響も、住んでいる場所によって大きく異なる可能性が高い³³。例えば、シドニー西部に住む子どもは、市内の他の地域に比べて猛暑に見舞われることが多い。2019～20年の夏、シドニー西部では35度を超える日が37日記録されたのに対し、市内ではわずか6日だった。沿岸部から西部まで、市全体の気温差は10度にもなる³⁴。

この調査の大きな欠点は、先住民のユースからの回答が不足していることである。先住民であると回答したのは1人だけで、その他の多様なユースからの回答も十分ではない³⁵。

オーストラリアのユースアクティビストは、オーストラリアでは気候変動の影響が常態化していると考えており、それが多くの回答者がこの選択肢を選んだ理由のひとつでもある。彼らは、洪水や森林火災、熱波によって学校教育が中断されたり、影響を受けたりしたにもかかわらず、このプロジェクトに参加するまでは、気候変動が自身の教育に与える影響について考えたことがなかったと振り返った。

ももとは、気候変動が私の教育に与える影響について、あまり深く考えていませんでしたが... このプロジェクトに参加して、その影響についてより深く考えるようになりました。特に、私はすべての学校が氾濫原の上に建てられているクイーンズランド州南東部に住んでいるのですが、気候変動が自身の教育にどんな影響を及ぼしているか考えたことのある(オーストラリアの)ユースがあまり多くないという事実、非常に納得しました。一緒に学校に通っている人と話しても、そのときまで、深く考えたことはなかったみたい... 『毎年、学校が洪水に遭うのは、そういうことなんだ』って。

- Angelina、ユースアクティビスト、オーストラリア

アンケートやフォトボイス活動では、障がい者であるという回答者はほとんどいなかった。文献調査を通じて、気候危機が、障がいのある子どもや女の子の教育の不平等をも増幅させていることがわかった。世界全体では、障がいのある子どもが学校に行っていない確率は、障がいのない子どもに比べて6倍にもなる³⁶。インドネシアでは、95%の子どもが小学校を卒業する一方で、障がいのある子どもは56%にすぎない³⁷。ネパールでは、障がいのある子どもの23%が学校に通っていないのに対し、障がいのない子どもは14%である³⁸。

気候の大変動は、ジェンダー、年齢、障がいのために、障がいのある女の子が直面する複合的差別を強化する。気候災害によって家計は壊滅的な打撃を受け、障がいのある女の子が学校に行くことが難しくなる。障がいのある女の子は、医療が中断されてしまったり、学校への通学が困難になったりすることなど、気象災害の際には更なる障壁に直面する。2017年にオーストラリアのノーザン・リバーズで発生した洪水では、障がいのある人びとは、自宅が浸水し、避難を余儀なくされ、避難生活が長期化する傾向が高かった³⁹。

事例研究:

森林火災、洪水、干ばつについての経験談 – オーストラリア、ネパール、インドネシア

Georgiaの話

「私の名前はGeorgia、ニューサウスウェールズ州の郊外出身です。2019年、私の町は、北と南からの2つの大規模な森林火災に挟まれました。私の父は、ゴミ箱に水を溜めて、学校からの被災状況の連絡を待っていたと話していました。周辺の多くの村は被災し、数カ月後に灰で覆われた黒い森の中を車で通り抜けたとき、どんなことが起こったかを思い知らされました。私は今年の夏が来るのが恐ろしく、そしてこれからも毎年夏がやってくるのが怖いのです。気候変動に対して私たちが何かをしなければ、これが私たちの新しい現実になるかもしれないのです。」



– オーディオ・ストーリーより引用

Samjhanaの話

20歳の Samjhana はネパール西部のバルディヤ出身だ。彼女はバルディヤのタル族のコミュニティに住んでおり、近隣の川からの洪水の危機にさらされている。

「子どもの頃から、気候変動によるコミュニティの大きな変化を経験してきました。私のコミュニティは様変わりし、洪水の影響が、コミュニティとその住民に与えるさまざまな課題について、より深く理解するようになりました」とSamjhanaは言う。

彼女は、「2014年に近くの川の水位が急上昇し、大雨と強風に見舞われました。その光景はずっと記憶に残っています」と言い、さらに「私は生まれてから一度もこのような大雨を経験したことはありませんでした。私はまだ11歳で、家と一緒に流されてしまわないように、母にしがみついていた」と付け加えた。

「2014年、私は35人の家族で共同生活をしていました。家は4軒あり、村に3軒、離れた町に1軒ありました。家はセメントではなく、泥と竹でできています。私の家族は昔ながらの家族で、古代の技術に従って家を建てていたのですが、災害に強い家ではありませんでした。

家の中に水が溢れ、3軒とも簡単に流されてしまいました。夜のことでした。学校の制服や教科書など、大切なものを持ち出すことさえできませんでした。早朝に目を覚ますと、家も学校も見当たりませんでした。コミュニティ全体が水没し、財産を失いましたが、幸いにも人命被害はありませんでした。

今でも思い出すと恐怖を感じます。もし雨がやんでいなかったら、あるいは家族が避難させてくれなかったら、他にどんなことが起こっていたらと思うと、そのたびにそわそわして、心配になるのです」。

Samjhanaの家族は、ネパールの80%の家族と同じように、農業で生計を立て、畑でさまざまな作物を栽培している。「私の家族はそれを売って収入を得ており、学校の学費を含め、必要経費すべてをまかなっています。私たちが米や小麦、農作物、野菜などを保管していた倉庫も、2014年の洪水で流されてしまいました。

母と私の家族の女性たちは、泥に浸かった米をきれいにし、ほぼ3日間、家族全員その米を食べ続けました。私たちは何日も飢えに苦しみ、汚水の混ざった食べ物で食いつなぎました。」

「私の姉は、母と一緒に泥から米を取り除く作業をしていたときに、水にとられて足を怪我しました。診療所は村から30分も離れていたため、姉はすぐに治療を受けることができませんでした。

昼間は家の近くの浸水していない場所にいました。でも、夕方には学校に行って寝ました。毛布やクッションはなく、よく眠れませんでした。私や従兄弟たちはいつも空腹でした。

学校はほぼ1か月間閉鎖されていました。なので、両親は残った財産を市内にある家に移し替えるのに忙しかつたのですが、私たちは両親のところに戻りました。制服はなくなり、本やバッグも流されてしまいました。

役所の職員が私たちを学校に訪ねてきて、食べ物や毛布、その他の衛生用品を提供してくれたのを鮮明に覚えています。これがプラン・インターナショナル・ネパールを知ったきっかけです。彼らは私たちに食料、飲料水、衛生用品を提供してくれました。

1か月後、私は学校に行くのが楽しみでした。学校では、新しい本、プリント、制服を用意してくれました。私は勉強についていけるか、成績がどうなるか、心配でした。でも、私の学校では試験前に無料で課外授業や対話指導をしてくれました。

しかし私の両親は、家を建て直すのに1年以上かかりました。政府は5万ルピーを援助してくれましたが、それでは足りなくて、ローンを組まなければなりません。ほぼ1年間、私たちは防水シートを使ってなんとか凌いでいました。

今、私は災害対応に関して、地元政府とプラン・インターナショナル・ネパールが開催するさまざまなオリエンテーション、研修、プログラムに参加しています。そしていつか警察官になり、自分の住むコミュニティの災害時に救助隊として働けるようになりたいと思っています」。

Osinの話

Osinはビデオの中で、村の人がよく使う井戸を紹介している。数少ない井戸から100世帯以上に行き渡るだけの水を汲むのは、非常に困難だ。

「だから、もし井戸に行くのが遅くなり、誰かに先を越されてしまって、いつもより多くの水が汲まれてしまっても、その人が汲み終わるまで待たなければなりません。万が一、彼らが汲み終えて水がなくなったら、朝学校に行く準備やお風呂に必要な水がないということになります」。

長引く暑さと干ばつが、Osinのようなユース女性のいるコミュニティにとって、日常生活に困難をもたらすことは明らかだ。特に教育への影響という点では、Osinは、自分と家族の基本的なニーズを満たすために引き受けなければならない仕事が増え、それに時間がとられてしまうと感じている。更にこの状況は、彼女が中学・高校時代に経験したように、学校の授業でのやる気にも影響する。「水がないと、顔を洗うだけで学校に行くのですが、日中は暑くて大変です。勉強のやる気も起きないし、気力もなくてモチベーションが下がります。朝先生が来てもだらだらして、結局勉強に集中できなくなるんです。」



絶望 - 失う未来 - 子ども時代と損失

気候危機による影響を受けているのは、女の子の通学路だけではない。彼女たちの教育の質、行事、そして日常生活への影響も深刻である。女の子は、学校や日常生活といった、子ども時代には当たり前のものを喪失し、将来への希望を失い、この先何が起こるかを心配しつつ、政治家が女の子の声に耳を傾けず、迅速な行動を取ろうとしないことに無力感をおぼえている。

インドネシアとネパールでは、気候危機の影響が学校生活にも及んでいるが、そこには男女格差がある。女の子は、気候危機による家事的増加の影響を感じている。例えば、日々の生活に必要な水を確保するために遠くまで行かなければならない。女の子は水汲みなどの家事を担うことが求められ、そのため勉強に使える時間が少なくなっている。

主な調査結果 4

気候変動は、女の子の通学の可否だけでなく、教育の質にも影響を及ぼしている

女の子は、休校が学習や教育の質に与える影響についてコメントした。彼女たちは、カリキュラムをこなすことができないこと、そして教科書やその他の学校教材が損害を受けていても十分補給されないこと、それによる教育への影響を不安に感じていた。学業成績の低下は、気候変動が教育に与える影響として、3カ国の調査回答者がもっとも多く挙げたもののひとつであった。

猛暑、寒さ、雨のため、学校は長期の休校となり、予定通りにカリキュラムを終えることができません。異常気象のため、通学したり授業を受けたりすることが難しくなっています。(ネパールの調査回答者)

洪水で教材が被害を受けました。おかげで試験の準備が大変でした。(ネパールの調査回答者)

災害があると、勉強時間を片付けなどに当てなくてはならない。それは教育活動を妨げるだけでなく、生徒の集中力や学習効率の低下をまねく。インドネシアのユースアクティビストSatrialは、洪水が生徒の学習をいかに妨げるかということについて語った。教室が浸水することへの恐れと、校舎から水を取り除くために学習時間が奪われてしまうことを述べている。

「だから、学習に...集中できないのです。」

インドネシアとネパールの生徒は、休校中、オンライン授業を受ける機会もなく、教育を継続するための支援を受けられていないと感じていた。インドネシアのユースアクティビストであるAlifは、1年のうち3~4ヶ月間洪水の影響を受けるラモンガン県の状況について話してくれた。

「多くの学校が休校を余儀なくされていますが、校舎を高くするための改修工事をしていない学校には、特にそれが目立ちます。このような長期にわたる休校は、教育の質に深刻な影響をあたえません。生徒が効率的に勉強を続けられるような支援はありません。」



Alifの画像。

この懸念はオーストラリアでも提起された。特に、もともと教育機会へのアクセスがしにくい、農村部や僻地の生徒に関するものであった。

私は、気候変動が質の高い教育へのアクセスに及ぼす影響を、常に懸念してきました。特にオーストラリアでは、農村部の学校が特に大きな影響を受けており、もともと教育に関する資源や支援が少ないとされる地域で、ユースが質の高い教育へアクセスすることが困難になります。

(オーストラリアの調査回答者)

教室内のことだけでなく、大気汚染によってスポーツや屋外の課外活動が制限されていることについての回答もあった。成長期の教育において、体力を養うための重要な活動が失われているという主張だった。

大気汚染がひどいとマスクが必要で...スポーツはできませんでした。(オーストラリアの調査回答者)

「大人と比較した場合、生徒たちの行動範囲はほとんど屋内となるため、大きな影響があります。」
- Della、インドネシア



Dellaの画像。

この影響は重要な行事にも及んでおり、特にオーストラリアでは、気候変動によって卒業式などの重要な節目のお祝いが中止されることになったという回答もあった。

火事で学校が中断されたり、休校になったりすることもあります。卒業式や集会など、重要な行事も火事が原因で延期や中止になります。

(オーストラリアの調査回答者)

「行事の中止とか、そういう現実的なことも...子どもが日常的に普通の学校生活を送ることに影響を及ぼしている感じがします...」。

- ユースアクティビスト、オーストラリア

主な調査結果 5

水不足はインドネシア東部地域の女の子にとって重要な問題であり、教育に影響を及ぼしている

気候危機はジェンダー的に中立ではない。女性は水汲みなどの家事の大部分をこなすため、猛暑による経済的損失は男性が76%であることに比べて260%に達する⁴⁰。さらに、2040年までに、4人に1人の子どもが深刻な水不足の場所に住むようになると推定されている⁴¹。これは、インドネシア東部地域の女の子にとって、深刻な問題となっている。これは完全にジェンダーの問題であり、女の子はジェンダーバイアスのために水汲みの負担が増え、学校に遅刻したり、登校してからも授業に集中できなかつたりする。

この10年間、気候変動によって干ばつが発生し、時間通りに登校できません。これは、清潔な水が不足しているためです(川の水は涸れ、清潔ではなく、井戸にはみんなが水汲みに来るので長い列ができています)。その結果、学校に行く時間が遅れ、教育の質にも影響します。

(インドネシアの調査回答者)

インドネシアのユースアクティビストであるWiwinは、この地域に続く干ばつのせいで、登校前に、ジェリー缶を使ってきれいな水を汲むなど、若い女の子の負担が増えていると振り返った。このようにして水を手に入れるために、Wiwinは村の他の子どもたちと一緒に、他の村まで長く危険な道を通らなければならなかった。



Wiwinの画像。

「以前は週に3、4回、川を通して他の村までジェリー缶を運んでいました。」

家事を優先するために学校を休む女の子は珍しくなく、Wiwinも学校にはなんととは通ったが、家事との両立は難しかった。



Monicaの画像。

「時間の確保が難しいです。
家に帰ると、家事や水汲みなどを
しなければならず、勉強の時間が
削られてしまうのです」

また女の子は、水不足のときには、月経時には家庭や学校で安全と尊厳が守られた状態で過ごすことが難しくなることや、それが学校の出席率にどのような影響を与えるかについても考えた。インドネシアのユースアクティビストであるMoguは、サイクロン Serojaのあと、彼女のコミュニティがどう水の危機に対処したかを振り返った、その被害は厳しい夏によってさらに悪化した。

Moguの地域では水の危機に瀕しており、彼女は家族に必要な水を手に入れるために様々な水源を訪れなければならなかった。写真に写っている貯水池は、トイレと入浴のために使われているが、かなり離れた場所にあり、坂道になっている。調理用や飲料用、そして家畜や庭のための水は、別の場所まで汲みにいかなければならない。

Moguの写真には、水不足への懸念が表れている。彼女は、自身や他の子どもが集めた水は、学校の教師用トイレのために優先的に使われていると指摘した。彼女は、学校に通う女の子が、特に月経の間、トイレで十分な水を利用できないことへの懸念を示した。災害後、仮設の学校施設に通う割合が男の子よりも女の子の方が低いというエビデンスもあり、生理中の女の子や女性にとっては更なる障壁となっている⁴²。

怒り - 気候危機が女の子の生活に
波及的に及ぼす影響と、それが彼女
たちの未来と希望にとって何を意味
するのか

気候変動の影響は学外にも及んでいる。農家の女の子は、凶作のため、学校に通うだけの経済力がない。

生計手段の喪失によって、家の経済状態が悪化する。そうなるとその負担を軽減するために女の子を学校へやらなくなることが多いということが明らかになっている。

気候危機は、2050年までに世界中
で1億5,830万人の女性と女の子を
極度の貧困に追い込む可能性が
あると推定されている⁴³。



土砂崩れ後の庭の状態を観察するPudeの母。



Pudeの画像#2。



Pudeの画像#3。

主な調査結果 6

農作物は凶作で、学校に通う余裕はない

インドネシアのユースアクティビストであるPudeは、2021年の土砂崩れ後に庭の状況を観察する母親を写真に収めている。このとき、母親はその年には収穫がまったくできなかったことを思って涙を流していたとPudeは語る。庭が破壊されただけでなく、土砂崩れで道路が寸断されたのだ。

「生計が成り立たなくなると、子どもの教育にも支障が出ます...畜産の収入は子どもの教育にも使われますから、村の水資源の確保にもっと目を向けるべきです」

(Pude、インドネシア、フォトボイス)

ネパールでは、4,000人超の生徒を対象とした別の調査で、10人に1人以上の生徒が、気候危機が学費の支払い能力に影響を与えたと回答した。29%の生徒が、気候危機が収穫高や家計など、彼らの身の回りの環境に影響を与えたと答えている⁴⁴。このことは、ネパールのユースアクティビストの写真にも反映されており、気候危機が農作物に与える影響に焦点を当てたものがたくさんあった。洪水によって被害を受けた農作物の写真や、雨不足や干ばつによって被害を受けた農作物の写真などである。



ネパールのBandanaとManishaは、洪水と乾燥地による農作物の被害を写真で紹介している。



主な調査結果 7

女の子は気候変動のことを心配している。それは彼女たちの精神衛生にも影響し、将来望む仕事に就けるかどうか不安を感じている

気候危機は女の子のメンタルヘルスに大きな打撃を与え、その影響は教育にも及んでいる。IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は、女の子にとって気候変動による精神衛生への影響は、とくにハイリスクだと断定している⁴⁵。気候変動が現在の自身の生活に及ぼしている影響について、そしてそれが自身の将来にとってどのような意味を持つのかについて、女の子の心配は募る一方である。彼女たちは、希望する仕事につけるかどうか、学力をつけることができるかどうかなどを含め、自身の将来について選択肢が狭まることを心配している。

一番大きなことは...気候変動に伴う恐怖とストレスだと思います。それが私の精神衛生にどんな悪影響を及ぼし、またどの程度学校での生活に影響するかということです。(オーストラリアの調査回答者)

オーストラリアでは、回答者の71%が、気候変動が教育に与える影響について、「自身の将来の選択肢が狭まる」が最大の懸念事項だと答えている⁴⁶。

この調査では、3カ国とも回答者5人⁴⁷のうち約1人が、「将来就きたい仕事に就くのが難しい」がもっとも懸念されることだと答えた。

主な調査結果 8

女の子は、気候変動のせいで将来の選択肢が狭まったと思っているが、政治家が彼女たちの声に耳をかたむけようとしないことに怒りを感じている

女の子は気候不安に陥っているが、自身の未来をコントロールできないことや、政治家が自身の懸念に対処してくれないことに不満を感じている。彼女たちは無力感を感じている。

「結局、気候危機のせいで彼女たちには他の選択肢がなく、大都市の人びとと違って、今までどおりの生活を続けることしかできないと思っています」

– Mogu、インドネシア、フォトボイス

オーストラリアのYASは、ユースが意思決定者に懸念を伝えるための選択肢は限られており、ユース女性や女の子、多様なジェンダーを持つユースは、気候政策プロセスや意思決定の場から排除されがちであると述べた。

「学校へ通っていて、(気候変動が)初等教育や中等教育に影響を及ぼしていても、影響力のある誰かとのコネクションなどはなく、そのような大人に働きかけたり、何か行動を起こしたりできるような気がしないのです」

– Ni、ユースアクティビスト、オーストラリア

問題を提起する方法を知っていたとしても、女の子は自身の懸念が真剣に受け止められ、行動に移してもらえないことに不満を感じている。

「地元の政治家に接触する手立てはありますが、彼らはこの件について私の話を聞こうとはしません。ユースは政治家に働きかける方法を知っているけど、彼らは耳を傾けない。それが問題だと思います」

– ユースアクティビスト、オーストラリア

「クイーンズランド州南東部では、集中豪雨と洪水が深刻さと頻度を増しています。しかし、多くの学校は洪水に見舞われやすい、地価の低い場所に建てられています。子どもの教育に予算をかけた方が、政府が目先の節約をするよりも、将来的な見返りを期待できると思うのですが。」

– Angelina、ユースアクティビスト、オーストラリア

事例研究:

急進的な希望 – 海面上昇とともに- School Strikes 4 Climate

Amelia は学校ストライキの気候変動アクティビストで、7年生のときに初めて学校のストライキ集会に参加した。現在はキャンベラ在住だが、彼女の気候正義への情熱に火がついたのは、小学生時代にソロモン諸島で暮らしたことがきっかけだった。

「私は...友人や当時のコミュニティが、気候変動によって徐々に影響を受けているのを目にしたとき、それが何か、それが何を意味するのかよくわかりませんでした。わかっていたのは、少しずつ土地が消滅していているということだけでした...」。

活動することでAmeliaの学業には影響が出ているが、気候変動の影響によって休校になってしまった人々に比べれば、気候正義のために学業を放棄してまで戦っている自身は恵まれた立場にあると、考えている。

「私は本当に恵まれています。応援してくれる先生はたくさんいるけど、授業はあまり受けられませんでした。試験の時期には、試験か集会のどちらかを選ばなければならず、気候変動対策を推し進めることができないのならば、試験に合格してもしかたがないから、私はこの集会に行きたいのです。」

だが、学校ストライキの存在感と影響力が増していることを考えれば、その価値はあったと彼女は考えている。

政治家は今、(気候変動のための学校ストライキを)考慮にいれているし、私たちのことも知っています...私たちは認知されていますし...気候変動を終わらせるほどではありませんが、少なくとも私たちは政治家に印象を残すことができました。」



気候変動への世界的な団結：裕福な国々が責任を負い、一歩踏み出す

このセクションの主な所見は、私たちの調査における二つ目と三つ目の問題に答えるものである。教育を受ける権利を守るために、ユース女性や女の子、多様なジェンダーのユースはどのような変化を望んでいるのか。教育を通して気候変動と闘うために、どのようにインターセクショナルな価値観を活用しているのだろうか。

主な調査結果 9

女の子やユースは、気候変動やグリーン・ジョブの技術についてもっと学びたがっている - 現在のカリキュラムは十分なものではない

3カ国の回答者は、気候変動の影響に適応する方法について、また気候変動に関する意思決定や政策に影響を与える方法について、深く学びたいと考えている。教育は気候変動について学ぶための鍵である。意思決定者に何をしてほしいかという質問に対して、女の子は災害への備え方についてもっと学びたいとも答えた。

どの国の調査回答者も、将来希望する仕事に就くことが難しいという懸念を抱いている。ネパールでは、女の子は特にグリーン・ジョブのための技能を学びたいと考えている。これは気候変動が彼女たちの教育に与える影響に対して、意思決定者がとるべき対策のなかで、もっとも大切なことのひとつであると感じている。

インドネシアでは、女の子は理論にとどまらず、気候変動に適応するための実践的な方法を教えるカリキュラムを望んでいる。インドネシアでは、回答者のほぼ3人に1人が、気候変動の政策や意思決定に影響を与える方法について、もっと学びたいと考えている⁴⁸。

インドネシアのユースアクティビストは、写真でこのことを振り返った。Umam は、教師が単に机上の理論を教えるだけでなく、気候変動とはどういうものか、そしてそれが生活にどんな影響を及ぼしているかということをお教えてほしいと望んでいる。Abdillah は、「環境問題に基づいたカリキュラム」が実施されることを望んでいる。

Mariaは、政府機関への働きかけや、意思決定者が気候政策についてユース、特に女の子と、より深く関わる必要性について語った。プラン・インターナショナル・インドネシアとの協力のもと、彼女は政府の関連機関とワークショップを行い、提案や勧告を継続的に提出している。そして、廃棄物管理などに関する環境規制が改善され、気候関連の問題を最小限に抑えるために効果的に施行されてほしいと考えている。

「政府機関と協力し、よりよい環境規制を提唱することは、沿岸地域における気候問題に取り組む上で極めて重要なステップです」



Mariaの画像。

このことは、政府はユースのニーズに耳を傾けてほしい、特に女の子や子ども、高齢者、障がい者などの社会的弱者に対して、物質的・経済的な側面だけではなく、むしろ教育、医療、基本的権利へのアクセスの強化を優先してほしいという希望を語ったAlifを含め、インドネシアの他のユースアクティビストたちによっても繰り返された。

また、オーストラリアとインドネシアでは、ユース女性たちが、カリキュラムの中でインターセクショナルな観点から気候正義に注目すること、および気候科学を超えた市民教育を行うことの必要性について語り、自国の気候変動関連政策に参加し、自分たちの主張に耳を傾けてもらいたいという願望を示した。

[私の受けた気候教育では] 専門用語や科学的知識は教えてくれましたが、自分ごととして危機感を覚えるほどではありませんでした。もし何かしたいのなら、こうすればいいんだよ、とか...もっと包括的だったらよかったのに。

- Amelia, School Strikes 4 Climate



オーストラリアでは、先住民の知識がこのカリキュラムに不可欠であると考えられている。彼らは、気候変動がもたらす影響が不平等であることや、政府の行動や政策に影響を与えることに焦点をおいた、より交差的なカリキュラムを望んでいる。

オーストラリアのユースアクティビストであるImanは、フォトボイスの中で、特に女性や女の子の活動に焦点を当てた気候変動に関するカリキュラムの欠如と、彼女たちが経験している独自の不平等な影響について考察した。

オーストラリアのNilは、フォトボイスの中で、気候変動のための学校ストライキの経験について語り、多くの生徒が行動を起こしているにもかかわらず、教師はストライキの存在を認めることが許されないという衝撃的な断絶について語った。

奇妙なことに、ストライキ当日の朝、クラスメートの大半が活気に満ちていましたが、先生たちは「政治的すぎる」という理由で、ストライキを認めなかったのです...もっとも印象的だったのは、私たちが授業から抜けるために、届けを提出しなければならなかったのですが、ほとんどの生徒はストライキとはまったく関係のない理由を書きました。納得がいかないのは、先生たちが私たちとこの件について話すことを禁止されていたということです。教育者であり、私たちの人生における重要なロールモデルである人たちが、私たちの教育や気候正義に関する会話を奨励するのではなく、沈黙することを期待されていたのです。



ユースは、一部の教師や大学が環境問題をよく理解していない結果、こうした価値観を積極的に教えたり、学生の活動を支援しようとしないうことを懸念している。

インドネシアのHildaは、教育と啓発に重点を置いた気候変動活動に取り組んでいるが、このプロセスにおいて重要なアクター、例えば学校の教師などの多くが、積極的に参加しようとしないうことがわかったと語った。Rioは、彼女が通う大学では、環境問題の知識を持つ教師がほとんどいないことを指摘した。

「私が大学で環境問題への懸念を表明しようと思ったとき、[問題]となったのは、環境問題に精通した教育者がいないことでした。そのため、この環境問題を学内の関係者に知ってもらうのは、少し難しいと感じました。」

女子教育への投資事例

- **15兆～30兆ドル**: 世界中の女の子が12年間の教育を受けられなかった場合の各国の損失。
- **514.8億トン**: 女子教育をすることで、2050年までに削減できる可能性がある排出量⁴⁹。
- **25%**: 女の子が中等教育を1年修了するごとに増加する将来の収入⁵⁰。
- **22%**: 低所得国における初等教育への投資収益率⁵¹。
- **12倍**、災害救援支援よりも費用対効果が高い気候変動に強い学校インフラへの投資⁵²。

主な調査結果10

女の子は活動を通じて、自分の将来に希望を持つことができる。だが、気候危機に対処する責任は裕福な国や大規模汚染者にある

気候変動が彼女たちの教育に与える影響にもかかわらず、女の子は積極的な変革の担い手であり、このプロジェクトに参加したユース女性の活動や、調査を通して自分たちの体験談を語ってくれた女の子からは、強い熱意が感じられた。彼女たちの気候変動活動、そして世界中の女の子の活動によって、彼女たちは未来への希望を持ち、変革は可能だと信じられるようになったのだ。

「気候変動に対するさまざまな懸念がきっかけとなり、私はコミュニティに参加し、この問題に取り組むようになりました。気候変動への理解と対策に熱中するようになり、私は地球温暖化への懸念を抱く者から、世界的な教育者になりました。私は自分の環境を大切にすることが必要であることに気づき、その知識を共有する責任を感じました。パニックになるのではなく、前向きな変化をもたらすチャンスだと考えたのです。」

女子校の9年生だった私は、当時オーストラリアに引越してきたばかりで、人と交流したり、ストライキのような大きな行事に参加することに不安を感じていたのをよく覚えています。気候変動とジェンダーの正義への情熱を語り合い、分かち合う中で、私は勇気を奮い起こし何人かの友人を誘って、気候変動運動のための学校ストライキに参加する決心をしました。この運動はGreta Thunbergに触発されたもので、彼女は私の同級生、教師、友人、家族の間で話題になっていました。少なくとも私にとってはホットピックであり、大変多くの人々が衝撃的な変化を起こすために集まったのだから、もちろん私も声を上げなければならなかったのです。

- Ni、ユースアクティビスト、オーストラリア

女の子やユース女性は、気候正義を求める世界規模の声を先導しているが、問題を解決するのは彼女たちの責任ではない。気候変動対策の責務を負うのは彼女たちだけでなく、このプロジェクトに参加したユースは、政府がより大きな行動を起こし、彼女たちの提唱する解決策に耳を傾け、気候危機に対する真の変革を実施する必要性を強く訴えた。



Devy: 生徒に環境について考えるよう促す

Devyは学校で、エコレンガ作り、タイヤガーデン作り、植樹など、気候変動に取り組むための課外活動を始めた。彼女は、この複雑な問題に取り組む上で、協力し合うことの重要性を強調している。

「環境に情熱を持つユースをもっとたくさん巻き込むことが重要です。可能であれば、自治体と協力してベンクル市のプラスチックごみ問題に取り組む必要があります。一部の人たちだけでは、すぐには解決しないからです。より多くの人をこうした取り組みに参加させることが課題です。」



Della: 生徒に自転車に乗ることを奨励

Dellaは、自転車の利用を奨励する運動など、環境に優しい習慣を促進するためのさまざまな取り組みを開始した。5カ月間にわたり、多くのアクティビストや団体と協力し、政府からの資金援助も受けて、一連の活動を実施した。これらの取り組みについて、Dellaは次のように自信を見せている。

「私はかなり楽観的です。ベンクルに限らず、インドネシアでこのような活動を実施することはそれほど難しいので、私たちは5カ月間、活動を続けました」。- Della, インドネシア

先住民の知識

先住民は6万年以上もの間、国土を守ってきた。彼らの知識とリーダーシップは、気候変動へのカリキュラムだけでなく、オーストラリアにおける気候危機対策においても、中心的な役割を果たすべきものである。無策によってもっとも大きな影響を受けるのは、先住民のユースである。気候変動は、彼らの文化的遺産や伝統的知識、土地の権利、国との継続的なつながりを脅かしているのである⁵³。気候危機への対応は、先住民の知識、在り方、行動様式を軸とすることが重要であり、国土を守ってきた先住民の専門知識と経験に焦点を置く必要がある。

この気候正義の呼びかけを主導しているのは、先住民のユースだ。若いブンジャラン族の女性、Amelia Telfordは、オーストラリア初の先住民ユース気候変動ネットワークであるSeedを設立し、化石燃料補助金の廃止を求めるキャンペーンを展開し、最近ではノーザン・テリトリーで行われている採掘の悪影響から国土を守るため、伝統的な管理者やそのコミュニティと協力し、映画『Water is life』の制作を支援した。ガダンジ・ワカジャの女性、Rikki Dankは、COP26で先住民の声を聞くよう提唱し、出身地であるノーザン・テリトリーのボロロラで採掘反対運動を行った。

Youth Verdict対ワラタ炭鉱⁵⁴

2022年、Youth Verdictは、クイーンズランド州の裁判所がガリリー盆地石炭プロジェクトの中止を支持する判決を下したことによって、歴史にその名を刻んだ。このプロジェクトは、25年間にわたって毎年最大4000万トンの石炭を採掘し、15億8000万トンの二酸化炭素を排出するはずだった。

Youth Verdictは、先住民が率いる13～30歳のユースグループである。彼らはこの訴訟で、ガリリー盆地の石炭プロジェクトが先住民の文化的権利と子どもの権利を侵すものであると主張した。このプロジェクトは連邦政府の承認を得ていたが、推進にあたって環境当局の承認と採掘リースが必要だった。クイーンズランド州の裁判所が先住民の証言を取り上げたのはこれが初めてであり、オーストラリアにおける気候変動訴訟で人権の主張がなされたのもこれが初めてであった。

クイーンズランド州裁判所は、このプロジェクトが容認できない気候変動リスクをもたらすと裁定し、Youth Verdictの活動により、クイーンズランド州政府に対し、環境当局の承認と採掘リースの両方を拒否するよう勧告した。

「気候変動は私たち皆の未来を脅かすものなので、私たちは Clive Palmer のワラタ炭鉱に対してこの訴訟を起こしています。先住民にとって、気候変動は国土とのつながりを奪い、故郷との関係に根ざした私たちの文化を奪うものなのです。

気候変動は、国土を守る責任についてユースを教育することを妨げ、彼らの文化、法律、土地、水域に対する生まれながらの権利をはく奪するのです」。

- Murrawah Johnson、
Youth Verdict共同ディレクター、先住民主導者

損失と損害

「損失と損害」とは、気候変動がもたらす破壊的な影響のうち、回避することができず、人々やコミュニティが適応できる範囲を超えるものを指す。

また、「損失や損害」に対処するための資金や資源をコミュニティが利用できないことを指す場合もある。

損失とは、人命、生物多様性、文化遺産、先住民の知識の喪失など、回復不可能な結果を指す。損害とは、家屋、学校、病院、道路、橋など、復元や修復が可能な結果を指す。

破壊された建物や道路の修復費用、災害後の経済的生産性の損失など、数値化できる損失もある。

だが、この報告書が示すように、経済的な数値化できない損失や損害もある。女の子にとっては、休校日数の増加、行事の中止、先住民の知識や将来への希望の喪失という形で現れる⁵⁵。

人為的な気候変動がもたらす深刻な影響を、将来を担う世代に負わせることは、モラルとリーダーシップの欠如である。

ドイツやニュージーランドなど、気候変動に多く加担してきた富裕国は、その影響により壊滅的な打撃を受けた低所得国への支援に乗り出している。これらの国々は、損失と損害の資金調達に貢献している。オーストラリアは、これらに参加し、気候正義に向けたこの機運を高める手助けをしなければならない。

我々は今すぐに行動しなければならない。現在のユース、将来を担う世代、そして地球の権利と幸福が危機に瀕している。

生命、土地、文化の回復不可能な喪失は、すでに始まっている。この報告書は、ユースが教育に関して経験している損失と損害が計り知れないことを示している。そして、行動を起こすことが遅れるほど、こうした影響はより悪化することも分かっている。

気候変動におけるオーストラリアの役割について、富裕国として責任を負うということは、石炭やガスを段階的に廃止し、パリ協定に沿って、できる限り緊急に地球温暖化を抑制するための役割を果たすということでもある。

より良い未来への ビジョン – 提言

これらの提言は、私たちの調査課題の三つ目に答えるものである：教育を通して気候変動と闘うために、インターセクショナルな価値観をどのように活用するのか。私たちは、女の子や多様なジェンダーに属するユースのインターセクショナルな経験は幅広く、それらのすべてを把握できているわけではないということを知っている。だからこそ更なる調査やキャンペーンが必要であり、これらの調査結果や提言をもとに、今後も継続できることを願っている。

権力を打破し、気候変動下の世界を主導する女の子

気候危機は、ジェンダー的に中立ではない。女の子、ユース女性、多様なジェンダーを持つユースは、気候危機の矢面に立たされており、彼らの訴えが取り上げられ、実行されることを望んでいる。

1. National Council of Young Women on Climate (気候に関する全国若年女性協議会)を設立すること

- a. 私たちのユースアクティビストは、ネパール、インドネシア、オーストラリアが、National Council of Young Women on climateの設立や、多様な訴えを広めていくこと、気候変動の影響を実際に経験したユース女性に焦点を当てること、ユース女性や女の子、多様なジェンダーのユースと、意思決定者との間で、直接意思疎通できるようになることを望んでいる。このような協議会は、気候変動がいかにジェンダー不平等を悪化させているか、また、意思決定者がどのように優先順位をつけてこれに取り組むことができるかについて、着目することになるだろう。
- b. 国レベル、自治体レベルの意思決定者は、気候変動政策の立案、実施、評価のプロセスにユース女性を積極的に参加させるべく、アフーマティブアクションを実施するべきである。

「損失と損害」

ユース女性、女の子、多様なジェンダーのユースは、気候変動への不作為によって失うものがもっとも多く、すでに教育の中断、メンタルヘルスへの影響、将来への希望の喪失などといった損失を経験している。気候危機は、特に低所得国において、日常的に気候危機の影響が深刻なコミュニティに所属する女の子に、最初に、もっとも大きな影響を及ぼしている。気候変動の原因を作ったオーストラリアのような富裕国には、気象災害の矢面に立たされている低所得国を支援する責任があり、この分野において変化をもたらす世界のリーダーになる機会がある。私たちのユースアクティビストは以下のことを望んでいる。

2. COP28でオーストラリア政府が損失損害基金への資金拠出を約束すること。
3. 子どもの権利が、損失と損害の資金を配分する際の基本理念であること。
4. UNFCCC損失損害基金において、教育への影響が非経済的損失損害として承認されること。
5. 損失損害基金からの資金は、気候危機の影響下にある女の子が、教育を受ける権利を実現できるように支援するために使われること。資金提供の対象は以下の通りである。
 - a. 通学路および紛失した教科書やその他の教材の確保、インターネットやオンライン学習の機会へのアクセスを含む、災害後の女の子の就学支援。
 - b. メンタルヘルスの支援。

- c. 社会的な保障、保健、水と衛生、子どもの保護など、主要な社会サービス部門への投資。
- d. 持続可能な農業、再生可能エネルギー、環境に優しい取り組みに焦点を当て、気候危機が女の子の将来の生計の機会に影響を及ぼしていることを認識し、グリーン・ジョブ技能習得の機会を設け、グリーン・ジョブや職業訓練の機会を提供すること。

気候危機における女子教育の優先と災害への備えの強化

私たちのユースアクティビストは、学校の文化やインフラを気候変動に強い、安全な空間にし、災害後に女の子が学校を休学したり、中途退学するリスクを減らしていきたいと考えている。彼らは意思決定者たちに以下のようなことを望んでいる。

6. 気候変動による混乱時にも女子教育が維持・保護されるよう、資源を配分し、政策を策定すること。
 - a. 特に脆弱な地域に気候変動に強い学校を建設し、安全で学習しやすい環境を整えること。
 - b. コミュニティの女の子や女性が積極的に参加できる、全体的な防災プログラムを実施すること。
 - c. 気候変動のリスク評価と軽減策を含む気候レジリエンス教育を、国の教育カリキュラムに組み込み、女の子に災害に対応できる知識と技能を身につけさせること。
 - d. 教師や生徒(特に女子生徒)に対し、災害対応、気候変動への適応、持続可能な農業に関する研修や支援を行い、彼らのレジリエンスを高めること。
 - e. 女の子特有の課題に取り組むため、ジェンダーに配慮した気候政策とコミュニティベースの解決策を推進すること。
 - f. インドネシアの地方自治体、特に東ヌサ・トゥンガラのような干ばつに見舞われやすい地域の地方自治体は、この地域の女の子やユース女性の福祉や教育に不平等な影響を及ぼしている水の危機に取り組むため、地域開発プログラムにおいて水へのアクセスを優先的に改善していくこと。

女の子の力を結集する

私たちのユースアクティビストは、気候正義の呼びかけを主導する世界中のユース女性、女の子、多様なジェンダーのユースとつながり、学びたいと思っている。彼らは以下のようなことを望んでいる。

7. 気候変動対策、リスク評価、軽減、活動のための、アプリベースおよびモジュールベースのツールキットの開発。これらには以下の事柄が含まれる。
 - a. 気候変動の影響について女の子に教えること。
 - b. 女の子に、気候変動に関する政策や活動に影響を与える方法を教えること。
 - c. 集団の力についての理解を深め、ユースに変化を推進していく力を与えること。
 - d. ユース主導の草の根運動を互いに結びつけ、経験、エピソード、キャンペーンを共有すること。
 - e. 広範なアクセスを確保するため、地元のラジオを含む複数のメディア・プラットフォームを通して普及させる能力も持つこと。
8. 教育継続のためのテクノロジーとデジタル化
 - a. 遠隔地におけるデジタル学習手段とインターネット接続を開発・導入し、気候変動による休校時でも教育が中断されないようにすること。
 - b. 特に女の子に焦点を当て、教育格差を埋めるためのテクノロジーとデジタル資源へのアクセスを提供すること。
9. 地方自治体は、女の子やユース女性のネットワークやグループの強化を優先し、気候変動対策とジェンダー平等を提唱するためのプラットフォームを提供すること。

巻末資料

- 1 The Malala Fund, 2021, A greener, fairer future Why leaders need to invest in climate and girls education, https://assets.ctfassets.net/0oan5gk9rgbh/OFgutQPKIFoi5IfY2iwFC/6b2fffd2c893ebdebee60f93be814299/MalalaFund_GirlsEducation_ClimateReport.pdfにて入手可能。
- 2 The Malala Fund, 2021, A greener, fairer future Why leaders need to invest in climate and girls education https://assets.ctfassets.net/0oan5gk9rgbh/OFgutQPKIFoi5IfY2iwFC/6b2fffd2c893ebdebee60f93be814299/MalalaFund_GirlsEducation_ClimateReport.pdfにて入手可能。
- 3 Plan International, Raising our Voice: Funding climate education and youth leadership in SE Asia and the Pacific (2021) 2.
- 4 回答者の15人が障がいを持ち、19人が文化的・言語的に多様な背景を持ち、19人が地方出身者であった。
- 5 この質問に対する回答率: 調査回答者全体の45%
- 6 [The social and economic cost of the North and Far North Queensland Monsoon Trough \(2019\) Queensland Reconstruction Authority \(2019\), Deloitte](#)
- 7 2022 Flood Response and Recovery (2023), Royal Far West
- 8 Office of the Advocate for Children and Young People (ACYP) “Children and Young People’s Experience of Disaster - Report” (2020)
- 9 [1 in 10 children affected by bushfires is Indigenous. We’ve been ignoring them for too long \(2020\), Bhiemie Williamson, Francis Markham and Jessica Weir](#)
- 10 [Victoria, November 2019 - February 2020 Bushfires - Black Summer, Australian Disaster Resilience Knowledge Hub](#)
- 11 Building a disaster-ready culture in Indonesia (2022), Wahyu Wilopo
- 12 Disaster upon disaster’ for children in Indonesia as 100,000 have exams disrupted by flash floods (2021), Save the Children
- 13 [Understanding the impacts of floods on learning quality, school facilities, and educational recovery in Indonesia \(2022\), Jonatan Lassa, Marla Petal, Akhilesh Surjan](#)
- 14 The Heat is On! Towards a Climate Resilient Education System in Nepal (2022), UNICEF
- 15 1.8 million children out of school as South Asia floods put education at risk (2017), Save the Children. Save the Childrenは、約50万人の子どもが学校閉鎖の影響を受けたと推定しており、政府の公式発表によると、通学できなかった子どもの数は238,900人であった。
- 16 Still recovering from the 2015 earthquake, now Nepal’s children are hit by floods (2017), Theirworld
- 17 [Addressing the climate, environment, and biodiversity crises in and through girls’ education \(2022\), UK Foreign, Commonwealth and Development Office](#)
- 18 [After the Disaster: Recovery for Australia’s Children \(2021\), Royal Far West and UNICEF](#)
- 19 World Skills Clock, <https://skillsclock.io/#interactive>
- 20 IPCC 6th assessment, [FAQs](#)
- 21 質問の回答率 64%
- 22 UNICEF, Rising to the challenge: Youth perspectives on Climate Change and Education in Nepal (2021).
- 23 [The coldest year of the rest of their lives: Protecting children from the escalating impacts of heatwaves \(2022\), UNICEF](#)
- 24 [The coldest year of the rest of their lives: Protecting children from the escalating impacts of heatwaves \(2022\), UNICEF](#)
- 25 [Climate change and educational attainment in the global tropics \(2019\), Heather Randell and Clark Gray](#). データは厳密には、この地域では、平均気温より2SD高い気温で過ごす子どもは、平均気温で過ごす子どもに比べて、学校で教育を受ける期間が1.5年短くなると予測している。
- 26 質問の回答率 53%
- 27 質問の回答率 74%
- 28 質問の回答率 65%
- 29 質問の回答率 64%
- 30 質問回答率: オーストラリア53%、インドネシア74%
- 31 Standen, J.C.; Spencer, J.; Lee, G.W.; Van Buskirk, J.; Matthews, V.; Hanigan, I.; Boylan, S.; Jegasothy, E.; Breth-Petersen, M.; Morgan, G.G. Aboriginal Population and Climate Change in Australia: Implications for Health and Adaptation Planning. Int. J. Environ. Res. Public Health 2022, 19, 7502. <https://doi.org/10.3390/ijerph19127502>
- 32 [1 in 10 children affected by bushfires is Indigenous. We’ve been ignoring them for too long \(2020\), Bhiemie Williamson, Francis Markham and Jessica Weir](#)
- 33 クイーンズランド州は、オーストラリアの他の州や準州と比較して、もっとも高い災害費用を負担している。その損失は、1970～19年の間で、ニューサウスウェールズ州の150%、ビクトリア州の3倍の損失にのぼる。この2つの州はクイーンズランド州の次に大きな損失を被った。[Hitting Home: The Compounding Costs of Climate Inaction \(2021\), Climate Council Even within QLD, the impact varied significantly.](#)

例えば、リズモアは大人1人当たり20,000ドルの損失を被ったのに対し、ブリスベンは1,500ドルであった。Climate Council (2022), [The Great Deluge: Australia's new era of unnatural disasters](#). さらに、社会経済的に下位に属するコミュニティは、2019年のブラック・サマー森林火災でもっとも深刻な森林火災に見舞われた。[Do fires discriminate? Socio-economic disadvantage, wildfire hazard exposure and the Australian 2019–20 'Black Summer' fires \(2021\)](#), Sonia Akter & R. Quentin Grafton. 同様に、2017年のリズモアの洪水では、被災者のほとんど(リズモアで被災した人の82%、ツイード地方で被災した人の50%)が社会経済的に下位に属する層の人びとだった。[Floods expose social inequities, and potential mental health epidemic in its wake \(2022\)](#), University Centre for Rural Health (USYD) シドニーでは、暑さが「ラテライン」に沿って不均等に分布している。シドニー西部は市内の他の地域よりも暑い日が続く。2019~20年の夏、シドニー西部では35度を超える日が37日記録されたのに対し、市内の他の地域ではわずか6日だった。沿岸部から西部まで、市全体の気温差は10度にもなる。[Why Western Sydney is feeling the heat from climate change more than the rest of the city \(2023\)](#), Milton Speer, Anjali Gupta, and Joanna Wang

- 34 [Why Western Sydney is feeling the heat from climate change more than the rest of the city \(2023\)](#), Milton Speer, Anjali Gupta, and Joanna Wang
- 35 回答者の15人に障がいがあり、19人が文化的・言語的に多様な背景を持ち、19人が地方出身者であった。
- 36 <https://plan-international.org/blog/2022/12/02/inclusion-better-for-everyone/>
- 37 [The State of Children in Indonesia \(2020\)](#), UNICEF
- 38 file:///C:/Users/swen/Downloads/Disabilities-Report_11_30.pdf page 77 (Jen to update)
- 39 [Floods expose social inequities, and potential mental health epidemic in its wake \(2022\)](#), University Centre for Rural Health (USYD)
- 40 [The scorching divide: How extreme heat inflames gender inequalities in health and income \(2023\)](#), Arsht-Rock
- 41 <https://www.savethechildren.org/us/what-we-do/emergency-response/climate-change>
- 42 <https://www.plan.org.au/wp-content/uploads/2023/04/from-crisis-to-classroom.pdf>
- 43 [Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2023 \(2023\)](#), UN Women
- 44 UNICEF, [Rising to the challenge: Youth perspectives on Climate Change and Education in Nepal \(2021\)](#).
- 45 [Climate Trauma: The growing toll of climate change on the mental health of Australians \(2023\)](#), Climate Council
- 46 質問回答率: 21%
- 47 合算結果の質問回答率: 39%
- 48 質問回答率: 28%
- 49 [Raising our Voice: Funding Climate Education and Youth Leadership in SE Asia and the Pacific \(2021\)](#), Plan International Australia
- 50 [Raising our Voice: Funding Climate Education and Youth Leadership in SE Asia and the Pacific \(2021\)](#), Plan International Australia
- 51 [Generation Hope: 2.4 billion reasons to end the global climate and inequality crisis \(2022\)](#), Save the Children.
- 52 [RewirEd 2021 Summit \(2021\)](#)
- 53 <https://theconversation.com/caring-for-country-means-tackling-the-climate-crisis-with-indigenous-leadership-3-things-the-new-government-must-do-183987>
- 54 <https://theconversation.com/this-case-has-made-legal-history-young-australians-just-won-a-human-rights-case-against-an-enormous-coal-mine-195350>
- 55 <https://plan-international.org/publications/loss-and-damage/>



Until we are all equal

plan.org.au **13 75 26**

Plan International Australia
18/60 City Road, Southbank VIC 3006
GPO Box 2818, Melbourne VIC 3001
Tel: 13 75 26 Fax: +61 (3) 9670 1130
Email: info@plan.org.au

ABN 49 004 875 807

 /planaustralia

 @PlanAustralia

 @plan_australia